

外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定に関する検討会議（2014.02.24）

「CAN-DOリスト」の形での 学習到達目標設定に関する高等学校の取組 －宮城県の事例－



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

初等中等教育局 国際教育課外国語教育推進室

向後 秀明

TOPICS

1. 宮城県における取組の特徴
2. 宮城県教育委員会の取組内容
(平成23年度～平成25年度)
3. 取組の成果
(学習到達目標の作成の現状と学習評価の改善)
4. 今後の課題

□ 教育委員会の強力なリーダーシップ



平成25年度「英語によるコミュニケーション能力・論理的思考力を強化する指導改善の取組」事業

⇒ 県立高等学校73校の内、9校(約12%)を「拠点校」に指定
(白石高等学校, 石巻高等学校, 佐沼高等学校,
中新田高等学校, 涌谷高等学校, 石巻西高等学校,
仙台向山高等学校, 仙台東高等学校, 岩ヶ崎高等学校)



特定の学校ではなく、県内全域での英語教育改善

□ 教育委員会の各高等学校へのサポート及び
両者のタイアップ



指導主事が年間20校以上学校訪問し、先生方との
協議及び授業指導・学習評価について指導助言



教育委員会と学校の先生方との距離が近く、
共同で行う英語教育改革

□ 各高等学校における英語担当教員の学習到達目標設定に関する意識変革



英語担当教員の授業指導及び学習評価の改善へ

(後述の「CAN-DOリスト研修会」参加者のアンケート結果より)

「CAN-DOを不安だ、役に立たないと思う人はいないと思いますが、日々抱えるものがどんどん増えて、飽和状態、処理しきれない、と思っ
てしまいます。ただ、後ろ向きではなく、やるべきもの、必要なものと考え、もう少し勉強して実践していきます。」

2-1 宮城県教育委員会の取組内容 ①：平成23・24年度

○ 「英語による授業」を先行実施する7指定校に学習到達目標の作成を依頼

○ 学習到達目標作成等における理解の伸張 (1)

- ・講演：「CAN-DOリスト作成上の留意事項等について」
(東京外国語大学大学院 根岸 雅史 教授)
- ・講演：「英語によるプレゼンテーション等について」
(宮城大学食産業学部 鶴岡 公幸 教授)

○ 学習到達目標作成に関する県内での情報共有 (1)

- ・文部科学省主催「英語力を強化する指導改善の取組」連絡協議会について
- ・学習到達目標の作成・運用及びパフォーマンステスト等について
(県内で実施の連絡協議会及び拠点校公開授業等の機会を利用)

2-2 宮城県教育委員会の取組内容 ②：平成25年度（1）

○ 学習到達目標作成等における理解の伸張（2）

（拠点校及び協力校（中学校）対象）

- ・講演：「CAN-DOリストの形式による学習到達目標等の概要」
（（株）ベネッセコーポレーション）

○ CAN-DOリスト研修会（6月及び9月に実施）

- ・2つの拠点校による学習到達目標作成を含めた実践事例発表
- ・講演及びワークショップ
（明治大学国際日本学部 尾関 直子 教授）

※使用教科書による单元ごとの学習到達目標作成

→ 3年間の学習到達目標作成の具体的な
イメージの構築

実際の教科書を活用した
学習到達目標の作成が
ポイント

【別添資料1】「都道府県・指定都市教育委員会高等学校『外国語』担当指導主事通信」Vol. 119

【別添資料2】「都道府県・指定都市教育委員会高等学校『外国語』担当指導主事通信」Vol. 130

(CAN-DOリスト研修会に参加した教員の反応)

【第1回（6月実施）】 ⇒ 学習到達目標の設定中心

- ◇ 何のためにCAN-DOリストの形で学習到達目標を作成するのか, またその作成のために何が必要であるかなどが分かってきた。
- ◇ 生徒の実態把握から始まり, 普段の授業改善につながることに気付いた。
- ◇ 実際に単元計画表に落とし込む作業を経験したことで, 作成方法が分かった。
- ◇ CAN-DOリストの形で学習到達目標を作成することは, 年間指導計画, 授業, 定期考査のすべてを再検討することになると思う。

【第2回（9月実施）】 ⇒ 学習到達目標に沿ったタスクの設定中心

- ◇ taskとexerciseの違いから, taskの定義がよく理解できた。今後, 教科書の素材を生かしてtaskを作ることができそうである。
- ◇ なんとなくの感覚的な活動ではなく, 理論を知り, その理論の上に活動を考える大切さを実感した。
- ◇ 頭を使い, 自分の考えをどうにかして表現する活動を, 普段の授業にもっと加えていきたい。

2-2 宮城県教育委員会の取組内容 ②：平成25年度（2）

○ 教育課程研究集会

- ・「英語による授業」を先行実践していた教員による、英語による模擬授業
- ・参加教員の言語活動の充実を図った、グループごとによるワークショップ

※助言指導者：拠点校の担当者

文部科学省の「英語によるコミュニケーション能力・論理的思考力を強化する指導改善の取組」(拠点校事業)を積極的に活用した県内全域における英語教育の改善

○ 学習到達目標作成に関する県内での情報共有（2）

- ・学習到達目標の運用及びパフォーマンステスト等について
(県内で実施の連絡協議会及び拠点校公開授業等の機会を利用)

学習到達目標の作成と同時並行で、その活用方法及び学習評価(特に「外国語表現の能力」の評価)の改善に向けて始動

3-1 取組の成果①：学習到達目標作成の現状

○ 各高等学校における学習到達目標の作成

- ・平成25年6月及び9月実施の「CAN-DOリスト研修会」で、各高等学校へ学習到達目標の作成・提出を依頼（提出期限：平成26年3月）
- ・（今後）教育委員会による確認、改善のための指導

【別添資料3】CAN-DOリストの形での学習到達目標 宮城県石巻高等学校

特徴－1

・各技能について、主に教科書を利用して身に付ける能力（左側の欄）と、それ以外の教材を活用して身に付ける能力（右側の欄）を分けている。

特徴－2

・各学年を前期と後期に分割し、各技能について、3年間で6段階の学習到達目標を設定している。

特徴－3

・「話すこと」をひとくくりとせず、“Production”と“Interaction”に分けて学習到達目標を設定している。

3-2 取組の成果 ②：学習評価の改善

○ パフォーマンステストの導入

- ・設定した学習到達目標を適切に評価する方法の模索
(教育主催の研修会等)
- ・定期考査8割+“平常点2割”からの脱却
- ・拠点校だけでなく、全ての高等学校における学習評価の改善

【参考映像】宮城県泉高等学校

第1学年「コミュニケーション英語Ⅰ」におけるスピーキングテスト
(平成26年1月実施)

※同校は、国立教育政策研究所教育課程研究センター
平成25年度「教育課程研究指定校」

「ほぼ全員の生徒が、英語による質問に対して、手元に何も参考にするものがない場合であっても、短い英語で答えることができるようになり、即興的に英語を発話する姿勢が定着した。」

(平成26年2月7日 教育課程研究指定校研究協議会での研究主任発表)

3-3 取組の成果③：教員・生徒の意識等の変容

【英語担当教員】

- ・教員間でのコミュニケーションの増加
- ・教員間で互いの良さを認め合う姿勢
 - ⇒ それぞれができること、困難なことを認め合う雰囲気
- ・学習到達目標の共有による、統一した指導の実施
 - ⇒ 共通指導体制による“ぶれない”指導
- ・4技能のバランスの取れた指導
 - ⇒ 学習到達目標の“指導ロードマップ”としての役割

学習到達目標の作成にあたって、他の自治体や学校からも多く聞かれた声



学習到達目標の共有による生徒・教員間での親和関係の更なる構築

【生徒】

- ・各学習到達目標に主体的に取り組む姿勢
 - ⇒ 成功体験による学習動機の向上
- ・ペアやグループでの学習による生徒同士の理解の伸張
- ・生徒間での支援体制(助け合う姿勢)の構築

4 今後の課題

【学習到達目標の設定について】

- ・各高等学校における学習到達目標設定のための時間確保
- ・学習到達目標として設定した各能力記述文の検証（妥当性等）

【設定した学習到達目標の運用について】

- ・“作成して終わり”にしないためのフォローアップ
- ・年間指導計画や単元計画に活用していく具体的な方法に関する研修

【中・高で連携した英語教育について】

- ・学習到達目標設定における中学校と高等学校との接続
⇒ 近隣の中学校との更なる連携

都道府県・指定都市教育委員会 高等学校「外国語」担当
指導主事通信 Vol. 119

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定に向けて

－宮城県教育委員会主催の「CAN-DO リスト研修会」－

3月に、文部科学省初等中等教育局から「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」が出されたこともあり、各自治体では、本手引きを活用した研修会が盛んに行われているようです。本号では、6月20日（木）に実施された宮城県の「CAN-DO リスト研修会」（2回シリーズのうちの第1回）について、宮城県教育委員会からいただいた情報をお伝えいたします。



CAN-DO リスト研修会 実施要項（一部抜粋）

1 目 的

生徒の外国語能力の向上を図るため、4技能毎に学習到達目標を CAN-DO リストの形で作成及びその活用法について、実践的な理解を深め、指導と評価の改善に資する。

2 主 催 宮城県教育委員会

3 期 日

(1) 第1回 平成25年6月20日（木） 10:00～16:00

(2) 第2回 平成25年9月19日（木） 10:00～16:00

4 対 象

(1) 県内の高等学校，中等教育学校，関係特別支援学校高等部の外国語教員1名

(2) 先進的英語教育充実支援事業の協力校（県内市町立中学校）担当教員1名

※上記2回の研修会には、同一教員の参加を原則とします。

5 会 場（第1回研修会）

宮城県総合教育センター 第2研修室（3階）他

6 日 程（第1回研修会）

9:30 ～ 10:00 受付

10:00 ～ 10:10 開会行事 (1) 高校教育課あいさつ

(2) 講師紹介

(3) 日程説明

10:10 ～ 10:20 説明 「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策について」

10:20 ～ 11:00 実践事例発表①

発表者：宮城県石巻高等学校 教諭 今野 敦子 教諭 武田 誠

11:10 ～ 11:50 実践事例発表②

発表者：宮城県中新田高等学校 教諭 安部 範人

11:50 ~ 12:50 昼食休憩

12:50 ~ 15:50 講義及びワークショップ

講師：明治大学国際日本学部 教授 尾関 直子

15:50 ~ 16:00 閉会行事

参加者の感想

【実践事例発表について】

○石巻高校のハンドブックは、中学校でも活用できるものと思われる。生徒に英語で考えさせ、話させるという工夫が多くのところで見られて良かった。中新田高校でも、CAN-DO リストの作成過程で毎年工夫し、それに伴い、指導の仕方も工夫している点が参考になった。どちらも生徒が生き生きと活動している点が素晴らしかった。（A中学校）

○具体的な実践が紹介され、高校での授業の様子が分かった。小中では、互いに授業を参観しているので、中高でももっと連携が図れればよいと思った。（B中学校）

○生徒とのレポートが成立している。モチベーションも高く、楽しい雰囲気で行っていた。（C高校）



○具体的な指導方法を惜しみなく発表していただき、大変参考になりました。特に、石巻高校の先生の、何度も様々な角度から英文を読ませ、タスクを通じて内容理解を図り、難しい文法部分は Reading Guide を与え生徒に任せる、というところが大変勉強になりました。教室で授業でしかできないことと、生徒が一人でもできることを明確化し、授業では先生がいるからできること、クラスメイトがいるからできることを組み合わせており、無駄のない、しかも communicative な授業だと感じました。（D高校）

【講義について】

○CEFR の話は大変興味深く聞かせていただいた。難しい内容ばかりではあったが、何のために作成するのか、また CAN-DO リスト作成のために何が必要かなど、少し分かってきた感じがする。

（E中学校）

○CEFR について知りたかったので大変参考になった。今後、CAN-DO リストを作る上で照らし合わせながら、生徒の実態調査をした上で、当校に合わせたものを作成したい。（F中学校）

○CAN-DO リストを作成することで、生徒の実態把握から始まり、普段の授業を改善することにもつながることに気づきました。中新井田高校のリストを参考にしたいと思います。（G高校）

○CAN-DO リストが、いかなる考えから生み出されたものなのかがとてもよく分かった。背景を知ると知らないのとでは大きく違うと思う。（H高校）

【ワークショップ（グループ毎による単元計画作成）について】



- 実際に単元計画表に落とし込む作業を経験したことで、作成法が分かりました。また、生徒の実態が近い学校で集めていただいたことで、他校で重視していることを学び、当校に取り入れるべきアイデアも知ることができました。（I高校）
- 実際に単元計画を作成してみると、今まで当たり前だったこともよく考えると、様々な意味を持たせることができると思った。（J高校）

【その他】

- 中高連携もこの事業のポイントの一つになると思いますので、連携する学校同士で、高校（拠点校）の単元を中高教員で考える、中学校の単元を中高合同で考える、といった活動もあっても良いのではないかと考えます。（K中学校）
- CAN-DO リスト作成についての不安が、少し楽しみにになりました。（L高校）
- CAN-DO リストを作成することは、授業、考査、年間指導計画すべてを再検討することになると思います。本校は英語科が1名なので作成に不安がありますが、この研修を活かしていきたいと思います。（M高校）
- CAN-DO を不安だ、役に立たないと思う人はいないと思いますが、日々抱えるものがどんどん増えて、飽和状態、処理しきれない、と思ってしまいます。ただ、後ろ向きではなく、やるべきもの、必要なものと考え、もう少し勉強し実践していきます。（N高校）

【尾関先生から、次回研修会までの課題】

- 「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」について、自分が使用している教科書全単元に係るCAN-DO リストの形での学習到達目標を設定してくること（A4用紙）。また、まだ授業を行っていない単元の一つを選び、単元計画を完成すること。
- 評価規準についての資料（「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（高等学校 外国語）」）を讀んでくこと。

都道府県・指定都市教育委員会 高等学校「外国語」担当
指導主事通信 Vol. 130

「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定に向けて ②
—宮城県教育委員会主催の「CAN-DO リスト研修会」第2回から—

本通信 Vol.119 (2013/07/02) で、宮城県の「CAN-DO リスト研修会」第1回 (6月20日 (木) 実施) について紹介しました。今号では、9月19日 (木) に行われた第2回研修会について宮城県教育委員会から御提供いただいた情報をお伝えいたします。

(宮城県教育庁高校教育課 小金 聡 主任主査より)

当該第1回研修会同様、今回の研修会にも講師としてお越しいただきました明治大学の尾関先生には、とても感謝しております。2回の研修会とも、講義を通して教えていただきました知識をワークショップにより肌で体験する、という構成で進めていただきました。また、6月の第1回研修会では、第2回研修会に向けた事前課題が出題されておりました。尾関先生には、その資料一枚一枚に丁寧なご助言をいただきました。課題資料に記載されております先生のコメント等は、参加教員にとりまして、とても貴重なフィードバックになっていると考えております。



CAN-DO リスト研修会第2回の内容

◆ 実践事例発表

- ① 発表者：宮城県仙台向山高等学校 丸山 高史 教諭
- ② 発表者：宮城県石巻西高等学校 富岡 久喜 教諭

◆ 講義及びワークショップ 「タスク活動について」

講師：明治大学国際日本学部 尾関 直子 教授

参加者数：101名 (高校籍92名, 中学校 (協力校) 9名)

参加者の主な感想



【実践事例発表①】

- アウトプット活動を、小・中・大と段階ごとに設定されていた点がとても良かったし、どの学校でも応用できると感じた。(A高校)
- 大変参考になりました。「インプット→インテイク→アウトプット」という一連の流れ、そしてインプットの中にも小アウトプットを取り入れることなど、自分の授業の中にも早速取り入れたい内容が沢山ありました。(B高校)
- 理論の上に授業が成り立っており、1つ1つに細かな

狙いがあり無駄がないと感じた。「理解は出発点」, 「自然なインタラクションを多くしたい」の言葉はとても心に響いた。オールイングリッシュにすると, 「これやって, あれやって」と機械的な授業になりやすく, 自分もどうしたら生徒が主体的に英語をしゃべれるようになるのか考えていたが, 機械的な授業から抜け出すヒントを得た気がする。(C高校)

【実践事例発表②】

○ 具体的にワークシート及びその活用の仕方を説明していただいたので分かりやすかったです。「出来そうなところからすぐに取り入れる」という考えは大切だと思いますが, もっと大切なものは, 「実際に取り入れる場面を考えることを後回しにしない」ことです。(D高校)

○ 実践事例発表①とは別の観点で, 実に様々な実践(特にハンドアウト作成, 活動の豊富な例に関して)をなされている先生の発表に圧倒されました。各レッスンの目標, 評価規準に合わせて, 早速本校に相応しいものを厳選し, 実践したくなりました。私自身も「こんなペア・ワークの方法があったのね!」と目から鱗のものがたくさんありました。(E高校)

○ 多彩なワークシートがとても有効であったと思うし, ペア・ワークの資料はすぐに使えるようなものだった。欲を言えば, アウトプットをどのようにするのか知りたかった。(F高校)



【講義・ワークショップ】

○ task と exercise の違いから, task の定義がよく理解できました。今後, 自分で教科書の素材を生かして, task を作ることができそうです。生徒たちも, ペアやグループでの活動を通して, 英語が楽しく理解できるようになったと言っているため, task を増やすことで, 彼らの力はもっと伸びていくと思います。(G高校)

○ タスク活動を分かりやすく説明していただき, それを体験でき, 教科書を使ったタスク活動まで紹介して頂き,

楽しく受けることができました。なんとなくの感覚的な活動ではなく, 理論を知り, その理論の上に活動を考える大切さを実感しました。(H高校)

○ タスクを体験する場面では, 生徒の気持ちで取り組むことができました。すごく頭を使い, 自分の考えをどうにかして表現する活動を授業にもっと加えていきたいと思います。(I中学校)



【その他】

○ 尾関先生には, 事前に提出した課題資料に, 評価及びコメントを付けて返却していただきました。とてもうれしかったです。(J高校)

○ いろいろと悩むこともありますが, 目の前の生徒たちにとって一番良いことは何なのかを自問しながら仕事していこうと思います。(K高校)

○ 実践事例発表については, 2回ともとても参考になり, はるばる名取まで来て良かったと思います。早速, 他の英語科の先生に報告し, 授業に生かせるところはどんどん取り入れていきます。また, 試行錯誤しているのは, 本校だけではないというのも, 研修会に来て感じることで安心できます。(L高校)

○ 本日の午前中に, 中学校の部を作っていただき, 疑問点や感想を話し合うことができました。高校の先生方との情報交換も勉強になりますが, 今後CAN-DOを作成するにあたり, 統一見解を持つことができたのが, 大きな収穫でした。(M中学校)

CAN-DO リストの形での学習到達目標

宮城県石巻高等学校

stage	time	SPEAKING		WRITING	LISTENING	READING		
		Production	Interaction					
6	3年後期	□与えられた内容について、自分の意見を論理的に述べるができる。	□社会的な話題について、議論することができる。 □議論において、適切な表現を使って、相手に質問したり、反論したりすることができる。	□社会的な話題について、複数の段落を論理的に構成し、10～15文程度で書くことができる。	□社会的な話題について、その内容を要約し、自分の意見を10～15文程度で論理的に書くことができる。	□馴染みのない内容について話された英語を聞いて、知らない単語は意味を推測しながら、要点を理解することができる。	□国内向けに放送されている英語のニュースを聞いて、概要を把握することができる。	□書き手の意図を推測し、自分の考えと比較しながら、英文の内容をより深く読み解くことができる。 □一般向けの英字新聞や雑誌を読み、辞書を使いながら、大体の意味を把握することができる。 □一般向けに英語で書かれた物語を、辞書を使って読み、大筋を理解することができる。
5	3年前期	□与えられた内容について、賛成・反対の立場から意見を述べるができる。	□自分の発言が伝わりにくかった時、言い換えることができる。 □相手の意見に対して、適切な表現を使って、質問や反論することができる。	□与えられた話題について、理由や例を挙げながら、10～15文程度で書くことができる。	□社会的な話題について、自分の考えや意見を、10～15分程度で書くことができる。	□馴染みのない内容について（主に既習の表現を用いて）話された英語を聞いて、要点を理解することができる。	□社会的な内容についてのスピーチや講義を聞いて、必要な情報を得ることができる。	□馴染みのない内容について書かれた英文を読み、知らない単語は意味を推測しながら、内容をほぼ理解することができる。 □英語学習者向けに書かれた上級レベルの読み物を読み、理解することができる。
4	2年後期	□自分で選択した話題で、スピーチやプレゼンテーションをすることができる。	□自分のプレゼンテーション等に対する質問に、英語で答えることができる。 □聞き手の理解度を確認しながら、分かりやすく伝えることができる。	□教科書の内容についての自分の意見を、理由や例を挙げて書くことができる。 □授業で習ったことや授業の感想を、構成を考えながら8～10文程度で書くことができる。	□興味のある内容について、自分の考えや意見を、構成を考えながら、8～10文程度で書くことができる。	□ある程度の知識がある内容について話された英語を聞いて、知らない単語は意味を推測しながら、内容を理解することができる。	□社会的な内容についてのスピーチや講義を聞いて、概要を把握することができる。	□段落ごとのつながりを意識しながら教科書の英文を読み、内容のほとんどを、英語のまま理解することができる。
3	2年前期	□教科書の内容についての自分の考えを、分かりやすい英語で相手に伝えることができる。	□なじみのある話題について、相手と簡単なやり取りをすることができる。 □その場に応じた声の大きさや調子で、発話することができる。	□教科書の内容について、既習の表現を用いて要約を書くことができる。 □授業で習ったことや授業の感想を、既習の表現を使って8～10文程度で書くことができる。	□興味のある事柄について、既習の表現を使って8～10文程度で書くことができる。	□ある程度の知識がある内容について、主に既習の表現を用いて話された英語を聞いて、内容を理解することができる。	□身近な話題について話された英語を聞いて、理解することができる。	□教科書の英文を読み、知らない単語があっても意味を推測しながら、内容の概要を、英語のまま理解することができる。
2	1年後期	□教科書の内容を要約し、簡単な英語で伝えることができる。	□決まった場面で用いられる表現を使って、やりとりをすることができる。 □表情や身振り手振りを適宜用いて、相手に分かりやすく伝えることができる。	□教科書の内容について、簡単な要約を書くことができる。 □授業で習ったことや授業の感想を、既習の表現を使って5文程度で書くことができる。	□興味のある事柄について、既習の表現を使って5文程度で書くことができる。	□教科書の内容を英語で聞き、理解することができる。	□家族や学校生活等の身近な話題について、ゆっくり話された英語を聞いて、理解することができる。	□教科書の英文を、意味のまとまりごとに区切って、英語のまま理解することができる。 □短い手紙やEメール等を読み、理解することができる。 □英語学習者向けに書かれた初中級レベルの読み物を読み、理解することができる。
1	1年前期	□教科書の内容について、与えられた語句を用いて、相手に伝えることができる。	□簡単なあいさつができる。 □アイコンタクトを意識して話すことができる。	□教科書の内容に関する質問に対して、英語で解答を書くことができる。 □授業で習ったことや授業の感想を、3文程度の易しい英語で書くことができる。	□自分のことや身の回りのことについて、3文程度の易しい英語で書くことができる。	□教師による挨拶や、指示を理解することができる。	□簡単な表現や質問を聞きとって、理解することができる。	□既習の語句が含まれた短い英文を読み、日本語を介さず理解することができる。 □表示や看板に書かれた簡単な英語を読み、理解することができる。 □英語学習者向けに書かれた初級レベルの読み物を読み、理解することができる。